



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

巻頭言 研究の一層の活性化に向けて

歯学部長 宮崎 隆

今年も恒例の科研費の申請が終了しました。歯学部からの全体の申請件数や申請額の報告を受けていませんが、来春多くの研究が採択されることを願っています。大学の使命は、教育は当然として、学問の継承と新たな創造のための研究の遂行です。本歯学部では、過去数年間新カリキュラムの導入や教育改革に総力をあげて取り組んできたので、従来に比べて研究活動が少し停滞気味であったと言わざるをえません。しかし、創立30周年を控えて、昭和大学歯学部の存続のためにも、一層研究に力を入れていく必要があると考えています。



昭和大学全体では、細山田学長を議長に共同研究促進会議を組織し、医系総合大学としての各学部間の共同研究を推進しています。平成14年度から、「再生医学・医療に関する研究」ほか5つの研究課題で、学部を横断した研究組織を構成して3年間研究を行ってきました。これについては研究成果の報告会を開催するとともに、学外評価者を含めて採点による厳しい評価を行いました。結果は大学の自己点検・自己評価報告書に掲載されています。平成17年度からは新しい大型プロジェクトがスタートし歯学部を中心に「生体材料と代替医療の開発」が採択されました。今後3年間、医学部や保健医療学部の分担者と共同研究を推進する予定です。

歯学部においては研究活動委員会(上條委員長)を発足させ、研究者データベースの公開、外部研究費公募情報のメーリングリストによる配信、共同利用機器の整備、上條奨学賞(研究補助)候補者の選考など、研究の活性化に向けて尽力していただきました。今年が目玉は、本委員会が中心になり、歯学部の総力をあげて申請した「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」という大型プロジェクトが、文部科学省のハイテクリサーチセンター整備事業の選定を受けたことです。大型機器が順次設置されつつあります。ご協力いただいた関係者に篤く感謝しますが、今後5年間に亘り研究を推進し、その成果を国内外に還元して責任を果たさなければなりません。

上條奨学賞(研究補助)は平成16年度の木村裕一先生に引き続き、今年度は岩瀬正泰先生が授賞しました。忙しい臨床の傍ら研究活動にご尽力いただいた先生方に敬意を表するとともに、基礎講座の研究者の一層の奮起を期待しています。

大学院については、運営委員会(立川委員長)で機構改革を進めています。講座の枠を越えて高度な卒業後教育と質の高い研究ができる環境整備を行っています。

今後の課題としては、国際交流(個人の研究レベルから学部レベル)の充実、海外からの質の高い研修生や大学院生の受け入れ、昭和歯学会のさらなる活用、産学協同研究の推進等があげられます。

来年度は本歯学部30周年の記念事業を計画しています。その中心は学術講演会にする予定です。歯学部のさらなる発展のためにも、教員が一丸となって研究の活性化を推進していきましょう。

平成18年度 歯学部推薦・編入学試験

入試広報委員長 山田 庄司

平成18年度歯学部推薦入学試験(23名募集)および編入学試験(若干名募集)が11月13日(日)に、旗の台校舎で行なわれました。推薦入学の志願者は101名(男子52名、女子49名)で昨年度の81名(25名募集)よりも20名増加しましたが、編入学試験の志願者は20名(男子8名、女子12名)で昨年より5名減少しました。試験当日は午前中の小論文に続いて、午後には基礎学力テストおよび面接試験が行なわれました。合格発表は推薦・編入学試験ともに16日に大学の掲示板とホームページ上で行なわれました。合格者の男女別内訳は、推薦入試が男子5名、女子18名、編入学試験が男子1名、女子4名でした。11月27日(日)には、推薦・編入学試験合格者に対して、入学後の授業に無理なく適応できるように、基礎学力テストの結果を基に入学前学習に関する相談と指導を行なう予定です。

白菊会連合会総会開催される

口腔解剖学教室 中村 雅典

白菊会連合会平成17年度総会が11月6日、日比谷公会堂で開催されました。総会には白菊会連合会に加盟する11大学14学部の会員および同伴者を含め合計1110名が参加され、昭和大学からは医学部、歯学部あわせて126名の会員および同伴者が出席されました。今年度の総会当番校である日本大学医学部の相澤信教授の開会の辞で始まり、御献体を頂いた物故会員の方々のご冥福をお祈りして参加者全員で黙祷を捧げました。文部科学省高等教育局医学教育課長補佐、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長の挨拶の後、加盟大学代表者の紹介があり、昭和大学からは大塚助教授(第二解剖学)と中村教授(口腔解剖学)が出席会員の方々に紹介されました。参加者は総会の後、余興として落語を楽しまれ、来年の総会での再会を約束して午後3時半に閉会いたしました。



第2回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会ワークショップ開催

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成18年度からの新臨床研修制度に伴う研修指導歯科医の資格要件として、厚生労働省の開催指針に則した講習会（ワークショップ）を経験することが必須となっています。



そこで、第1回（8月27、28日）に続き、本年度第2回目となる臨床研修指導歯科医養成のためのワークショップを昭和大学病院入院棟17階会議室で開催しました。今回の開催によって、昭和大学歯科病院のすべての協力型臨床研修施設への研修指導歯科医配置を達成できました。参加者は協力型臨床研修施設から12名、学内より1名の計13名で、前回（24名）の約半数でした。参加者は2グループに別れ、前回同様「管理型研修施設と協力型臨床研修施設の研修プログラムの連携」をテーマとして、仮想ユニット「医療面接」と「総合治療計画」に対するカリキュラムプランニングを通してグループ討議～発表～全体討議を経験しました。参加者たちは、初日こそ多くの教育用語や、指定時間内でのプロダクト作成に戸惑っていたものの、2日目にはこれら教育用語が共通言語となり充実した発表や討論を交わすことが出来ました。本年度2回目のワークショップでもあり、ディレクターの川和歯科病院長以下、7名のタスクフォース（久光、五島、菅沼、中島、堀田、勝部、長谷川）と2名の事務局（戸川、青柳）でスケジュールはスムーズに進行しました。また、特別講演として1日目には新歯科医師臨床研修制度に最も精通している厚生労働省平田創一郎先生に「新たな歯科医師臨床研修制度について」、2日目には北川昇助教授（高齢者歯科学）に「医療安全管理」をお願い致しました。今後は、学内の臨床研修担当指導歯科医にも受講を推奨する必要があるものと思われまます。

上條奨学賞 受賞者決まる

広報委員長 五十嵐 武

平成17年度上條奨学賞受賞者が決まりました。有益な学術研究業績ならびに教育上の功績に対して贈られる研究業績は、「口腔の機能的健康と機能障害に関する研究」で向井美恵教授（口腔衛生学）が受賞され、学術研究補助は「口腔癌に対する分子標的療法の開発」で岩瀬正泰講師（顎口腔疾患制御外科学）が受賞されました。授与式は12月3日（土）の昭和歯学会例会で行われます。

平成18年度昭和大学歯科病院臨床研修歯科医採用試験

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成18年度臨床研修医の採用試験が10月8日（第1回）と10月29日（第2回）に実施されました。臨床研修必修化に伴う定員増加だけでなく、マッチング制度への対応として複数研修施設（プログラム）に応募することが推奨されたことによって受験者の激増が見込まれたため、本年度は2回の実施となりました。受験者数は、第1回197名（新卒149名、既卒48名）、第2回49名（新卒28名、既卒21名）の計246名とほぼ予想された人数でした。採用試験会場として、第1回試験は受験者多数のために旗の台校舎を、第2回試験は歯科病院を使用しました。試験内容には、面接と歯形彫刻試験が採用され、面接試験には各教室より選任された計18名（第1回12名、第2回6名）の面接委員に、歯形彫刻試験実施および採点評価には口腔解剖学教室近藤講師に全面的にご協力していただきました。限られた試験時間内で意欲のある受験生、マナーの良い受験生を公正に評価、選出するために受験者に告知の上、待機時間等も行動観察評価の対象としたため、受験生はいずれも神妙な面持ちで約2時間半の試験を過ごしました。

現在集計中の採用試験結果は、臨床研修歯科医選考委員会（11月24日開催）の議を経て歯科医師臨床研修マッチング協議会に提出され、12月15日にマッチング結果として受験者に通達されます。この結果、アンマッチとなった受験生に対しては歯科医師臨床研修プログラム検索システム（<http://www.d-reisjp.org/>）で研修プログラム毎の空席状況（マッチングにより募集定員が充足せず、まだ採用可能な人数）が提供されます。

最後に採用試験実施企画に医学教育推進センターおよび歯科病院管理課の多大なる助力をいただいたことを付記させていただきます。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 11月29-1月17日（火）：歯学部3年生病院見学実習（歯科診療の基本・実習）
- 12月3日（土）：昭和歯学会例会（洗足キャンパス）
- 12月1-15日（木、月）：歯学部2年生口腔の生態系PBL
- 12月19、20日（月、火）：歯学部6年生 卒業試験
- 12月21、22日（水、木）：歯学部4年生 進級試験

父兄会秋季部会開催される

歯学部長 宮崎 隆

11月26日(土曜日)に恒例の父兄会秋季部会が旗の台校舎で開催されました。これまで歯学部会は1号館7階の講堂で開催していましたが、



今年は例年よりも多い200名強の参加者があったため、会場を4号館の301号室と302号室に移し、2-4年生の父兄と5-6年生の父兄を分けての開催となりました。はじめに宮崎学部長が歯学部の現状について報告され、来年度歯学部創立30周年記念事業を開催の予定で、父兄会にも協力を要請されました。佐藤教育委員長は新カリキュラム、共用試験、および国家試験について、各学年の重要事項を説明されました。また今年度から試行した学生の海外選択実習について父兄の理解を求めました。立川学生部長は全歯体を始めとする学生の課外活動の報告、さらに健康管理や生活態度に関する諸注意について話されました。また今回特別に川和病院長が出席され、来年度からの歯科医師臨床研修制度の必修化に関するマッチングや研修プログラムについて説明されました。限られた時間ではありましたが、多数の質問もあり、有意義な部会となりました。部会終了後、各指導担任との個人面談が行われました。その後、50周年記念館で開催された懇親会には4学部の父兄約500名が参加し、父兄同士また教員との懇親を深めました。

第1回PBLファシリテータ養成ワークショップ報告

口腔解剖学教室 中島 功

11月19日(土)午後、歯科病院2号棟第一会議室において「第1回PBLファシリテータ養成ワークショップ」が開催されました。



このワークショップには12月に歯学部2年生の「口腔の生態系」ユニットで行われるPBLのファシリテータ担当者10名と、PBLに関心のある参加者9名が参加いたしました。ワークショップはPBLチュートリアル委員長である中村教授の開会の言葉で始まり、ついで宮崎学部長の「昭和大学歯学部の教育におけるPBL」と中村教授の「昭和大学歯学部におけるPBLの現状」についての話があり

ました。その後3グループに分かれて12月に行われるPBL第1日目のシナリオ体験が行われました。シナリオ体験では活発な討論が行われ、シナリオから得られる学習項目の抽出が成されました。グループ討論終了後、各グループで抽出された学習項目について全員で討論が行われ、次いでトラブルの対処法についての討論が行われました。その後、片岡講師よりPBLについての解説、さらに馬谷原助手より、今回のPBLから導入されるPBL支援システムについての説明がありました。今回のワークショップは12月のPBLを円滑に行う事を主目的として行われましたが、今後、より多くの方にこのワークショップに参加いただくことでPBLを理解していただき、より良い教育が成されることを切望いたします。

平成17年度永年勤続者表彰式

歯学部長 宮崎 隆

去る11月8日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成17年度永年勤続者表彰式が執り行われました。昭和大学の発展に伴って表彰対象者が年々増加し、本年度の対象者は、35年が13名、25年が43名、15年が108名、合計164名でした。小口理事長から対象者一人一人に、表彰状と記念品が授与されました。表彰式に続き、タワーレストラン昭和で懇親会が開催され、各勤続年数の代表者から挨拶がありました。15年を代表して、歯学部歯科補綴学の塚崎弘明助教授が挨拶されました。歯学部関係の表彰者は以下の通りです。35年:外川 譲(歯科病院事務長)、25年:森 陵一(口腔解剖学)、松本光吉(齶蝕・歯内治療学)、鈴木基之(歯周病学)、積田正和(高齢者歯科学)、坂田泰二(中央技工室)、15年:佐野恒吉(口腔解剖学)、塚崎弘明(歯科補綴学)、成澤英明(齶蝕・歯内治療学)、鈴木誠二(医事課)、各務友美(管理課)、神田悦子(医事課)、石黒和子(看護部)、太田奈穂子(保存科)、東辻早苗(歯科麻酔科)



診療統計

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	17,195	747.6	727.0	702.9
入院患者	334	10.8	12.3	14.1

平成17年10月分

武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞決まる

学生部長 立川 哲彦

平成17年度の武重優秀クラブ賞並びに優秀クラブ賞の選考委員会が10月に行われました。応募クラブは4学部合わせて14クラブで、それぞれの活動状況ばかりでなく、医療人としての自覚ある部員の集まりであるかなどを詳細に調べ、それぞれの賞にあった位置づけも勘案し、7つの賞を厳正に選考し、表彰いたしました。

武重優秀クラブ賞:アイスホッケー部

アイスホッケー部はMDP合同クラブです。本クラブは本年度第54回関東大学アイスホッケー選手権で優勝をかざりました。この優勝はCトーナメント大会での2連覇であり、アイスホッケー創部以来初めての快挙です。また第54回関東大学アイスホッケーリーグ戦では準優勝をかざり、Aリーグ準優勝は約20年ぶりの快挙を遂げています。以上のようにアイスホッケー部はスポーツ大会で優秀な成績を収め、昭和大学の名を高く宣揚(せんよう)せしめましたので武重優秀クラブ賞に表彰されました。

歯学部賞:歯学部スキー部

歯学部スキー部は12名の部員を有し、夏の筋トレから冬のシーズンに向け、1年をとうして練習を重ねています。本年度の全日本歯科学生体育大会では回転、大回転、スーパー大回転で準優勝を収めました。また、第21回11歯科大学対抗戦では第3位、さらに第6回オール関東医科学生スキー大会では大回転個人総合優勝を収めました。とかくスキーは個人スポーツのようですが、総合的な成績から優勝が判断されるために部員の協調性が求められる点であります。以上のような点から歯学部賞に表彰されました。

その他、学長賞は馬術部(MDP合同クラブ)、医学部長賞は医学部硬式野球部、薬学部賞はバレーボール部(MDP合同クラブ)、保健医療学部賞は保健医療学部ボランティア部、学生部長賞は演劇部が受賞し表彰されました。

日本口腔衛生学会報告

口腔衛生学教室 弘中 祥司

第54回日本口腔衛生学会大会・総会が10月6～8日の3日間にわたり、品川区総合区民会館きゅりあんで向井美恵・大会長(口



腔衛生学教室)のもと開催されました。メインテーマは「地域口腔保健の近未来」で、学会会員・他で約1600名の参加がありました。特別講演では「国際交流、国際協力の現状と近未来」について大阪大学の中村安秀教授から講演を聞き、教育講演では品川区保健所長の青山キヨミ先生に御講演頂きました。一般演題は口演26

演題、ポスター165演題で会期中、活発な意見交換が行われておりました。8日午後からの市民公開講座では口腔衛生学会が推進する「禁煙」と口腔リハビリテーション科の高橋浩二科長による「睡眠時無呼吸症候群」の講演があり、また同時に「口と歯の健康フェア」が昭和大学歯科病院のスタッフの皆様と歯科医療研究会(歯学部学生)の協力の下に開催され多くの市民の関心を集め、盛会裏にて閉会致しました。学会開催にあたり御協力頂きました関係者の方々には、この誌面をお借りして御礼申し上げます。

日中歯科医学大会 2005

歯科薬理学教室 天野 均

11月11日～13日に中国最大の商業都市・上海市の上海光大コンベンションセンター国際ホテルにて、日中歯科医学大会2005が開催されました。



初日は夕方7時より中国側主催の歓迎懇親会が催されました。懇親会は、日中双方の会長挨拶で始まり、非常に和やかな雰囲気中日中友好を深めた気がしました。2日目より8題の特別講演(長谷川本学名誉教授の最新歯周病治療に関するものも含む)と200題のポスター発表(本学からは6演題・天野、伊佐津、伊田、久保、玉置、藤島の発表)がありました。最終日は口演演題が42題で、本学からは補綴の樋口先生が口蓋裂患者に装着する新しい形状記憶合金を用いた接着性ブリッジについての演題を発表されました。発表中にデジタルカメラで何度も撮影用のフラッシュがたかれるくらい注目を浴びました。発表演題は基礎歯学から臨床・教育までの幅広い研究内容でした。初めてお会いする方々と議論が出来たのが、自分にはとても有益なことでした。最終日の夜、上海市を流れる揚子江川岸で花火大会を偶然にも見る事が出来て、本当に貴重な体験をさせていただきました。

編集後記

広報委員(口腔微生物学教室) 森崎 弘史

ご多忙中の折、原稿の執筆にご協力頂いた諸先生方に深謝致します。

今年は秋の訪れが遅いと思っていましたが、11月も半ばを過ぎるとすっかり寒くなって参りました。今年もインフルエンザの流行する時期が近づいてきましたが、最近、鳥インフルエンザや抗インフルエンザ薬の副作用等、なにかとインフルエンザに関する話題が多いように感じられます。年末の忙しい時期になりますが、お体にお気を付け下さい。今冬の厚生労働省の標語は「手洗い・うがい」が基本です。インフルエンザは予防からです。